

—みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜—

横浜みどりアップ計画の評価・提案 骨子案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2019 年度報告書

横浜みどりアップ計画市民推進会議

2020 年 月

目 次

| | | |
|---|--|----|
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | 横浜みどリアップ計画と市民推進会議 | 2 |
| | (1) 横浜みどリアップ計画 | |
| | (2) 横浜みどリアップ計画市民推進会議 | |
| 3 | 市民推進会議 2019 年度の活動実績 | 5 |
| | (1) 2019 年度の活動の概要 | |
| | (2) 活動の詳細内容 | |
| | ①市民推進会議（全体会議） | |
| | ②施策別専門部会 | |
| | ③調査部会（現地調査） | |
| | ④広報・見える化部会 | |
| 4 | 施策ごとの評価・提案 | 12 |
| | ◆計画の体系 | |
| | ◆評価・提案の概要 | |
| | ◆各取組の柱のハイライト | |
| | (1) 計画の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む | 17 |
| | 施策 1 樹林地の確実な保全の推進 | |
| | 施策 2 良好な森を育成する取組の推進 | |
| | 施策 3 森と市民とをつなげる取組の推進 | |
| | (2) 計画の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる | 26 |
| | 施策 1 農に親しむ取組の推進 | |
| | 施策 2 地産地消の推進 | |
| | (3) 計画の柱 3 市民が実感できる緑や花をつくる | 34 |
| | 施策 1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進 | |
| | 施策 2 緑や花に親しむ取組の推進 | |
| | (4) 効果的な広報の展開 | 42 |
| | 市民の理解を広げる広報の展開 | |
| 5 | 市民推進会議委員名簿 | 46 |
| 6 | 市民推進会議委員からのコメント | 49 |
| 7 | 市民推進会議広報誌「みどリアップ Action」（2019 年度発行分） | 50 |

4 施策ごとの評価・提案

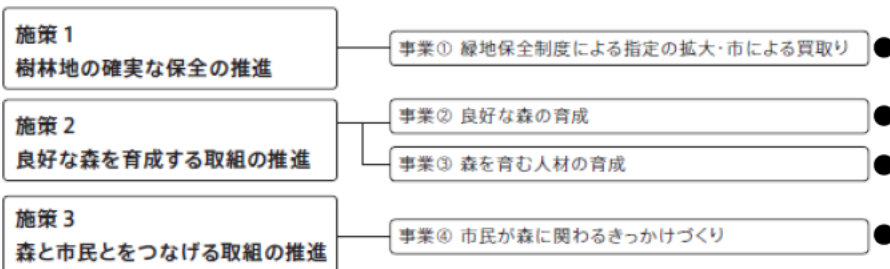
市民推進会議では、みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む（「森を育む）」、「市民が身近に農を感じる場をつくる（「農を感じる）」、「市民が実感できる緑や花をつくる（「緑をつくる）」の施策と、みどりアップ計画を市民の皆さまに周知するための「広報・PR」について、現地調査で市民や活動団体などからいただいた意見等を踏まえて、評価・提案を行いました。

なお、みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた用途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さまが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・提案を行いました。

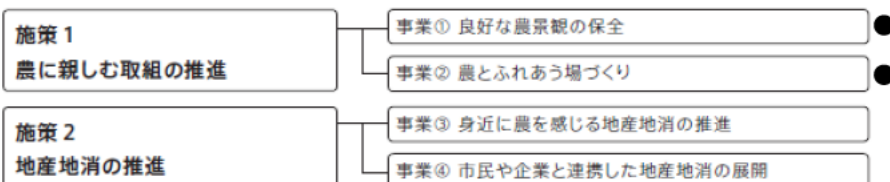
◆計画の体系

●：横浜みどり税を充当している事業・取組

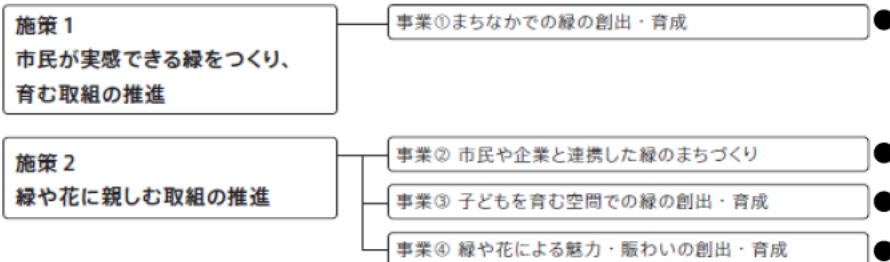
計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む



計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる



計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる



効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

◆評価・提案の概要

「計画の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、〇〇

「計画の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」については、〇〇

「計画の柱3：市民が実感できる緑や花をつくる」については、〇〇

「効果的な広報の展開」については、広報よこはまをはじめとした堅実な取組が進められただけでなく、リニューアルしたみどりアップ計画のロゴが広く使われ始め、ロゴマークとしての認知が広がったことや現地表示などの取組が強化されたことを評価します。こうした取組が途切れることなく組織全体で推進されることを期待します。

〇〇〇

◆各計画の柱のハイライト

令和元年度の実施状況について、これまでの実施状況とあわせて振り返ります。

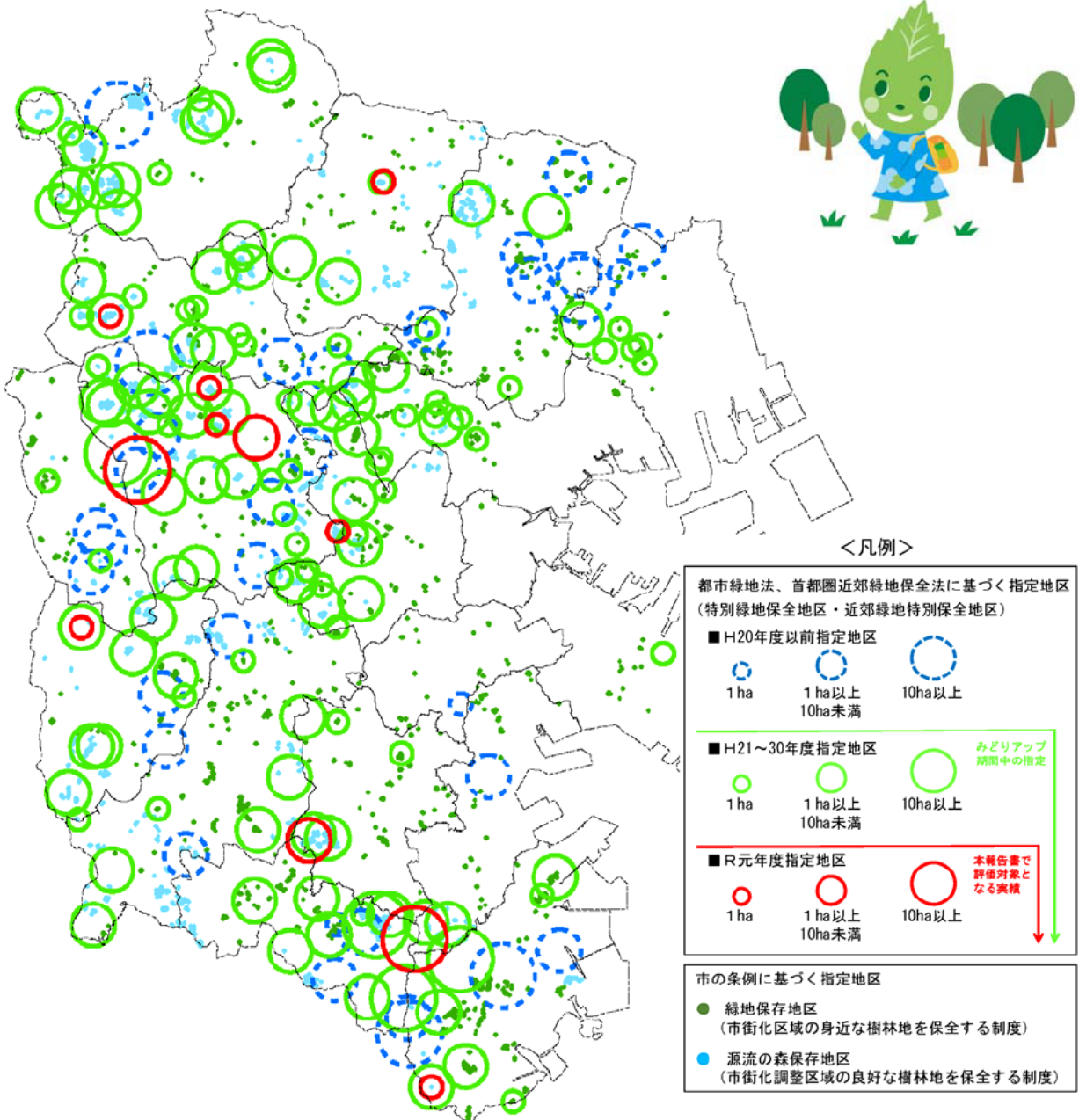


計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

緑地保全制度による指定の拡大が進んでいます

特別緑地保全地区などの緑地保全制度による指定は、緑のネットワークの核となるまとまりのある樹林地を中心に土地所有者へ働きかけを行い、2009(H21)～2018(H30)年度の10年間で約905.6ha、令和元年度は47.2ha指定されました。

<緑地保全制度による指定の状況>





計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

農園の開設が進んでいます

野菜の収穫や果実のもぎとりなどを気軽に体験できる収穫体験農園、区画割りされた農園で本格的な農作業が出来る認定市民菜園や農園付公園など、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設が進んでいます。



<農園の開設状況>

(2009(H21)年度からの11か年)

※()内はR元年度新規開設分



2019年3月末現在



計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

緑のまちづくりが進んでいます

市内各地で様々な緑をつくる自主的な活動が行われ、2009(H21)～2018(H30)年度の10年間で市内47地区において、魅力ある緑のまちづくりが進んでおり、2019年度は新たに4地区で緑化の取組が進みました。



<地域緑のまちづくり実施地区一覧>



(4) 効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

●事業概要(計画書から抜粋)

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、戦略的な広報を展開します。

●実績

| 令和元年度 | |
|----------------------------|---|
| 目標 | 実績 |
| 広報よこはま等の広報紙への記事掲載 | ・広報よこはまへの記事掲載 4月号(市版)、7月号(市版)、9月号(戸塚区版)、10月号(市版) |
| 実績リーフレット作成、自治会・町内会への説明や回覧 | ・財政局と連携した市連会等の実績報告の実施(6月) ・町内会等での回覧(6月) ・実績リーフレット等の区役所やPRボックスでの配架(9月) ・みどりアップ講演会等のイベントでの配布 |
| 広告、動画等の各種メディアを活用したPR | ・交通広告の掲載 東急東横線 TOQ ボックス及び相鉄線(5月)、MM 線掲出(6月～) ・公用車等でのマグネットシートによるPR(6月～) ・アニメーションのイオンシネマでの上映(10月～12月) ・緑区役所でアニメーション放映、パネル展示(10月) ・市営バスへのPRステッカーの貼付 |
| ホームページの充実 | ・ホームページリニューアル ・実績報告書等HPの掲載(6月) ・みどりアップの楽しみ方HPの掲載(10月) |
| メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信 | ・メールマガジン及びtwitterの発信(毎月) |
| 緑に関するイベントでのPR | ・里山ガーデンフェスタ(4～5月)、スプリングフェア(4月)でのイベントPR ・こどもアドベンチャー(8月)、里山ガーデンフェスタ(10月)、農と緑のふれあい祭り(11月)等でのPR |
| 取組に基づいて実施したことを示す現地掲示(プレート) | ・ガーデンネックレス横浜と連携した緑化表示板の作成(8月、10月) ・各区への緑化表示板の配布(1月) |



広報よこはまの特集記事への記事掲載



アニメーションを活用した広報



工事現場での現地表示



東急東横線車内での広告の掲出



マスコットキャラクターの活用

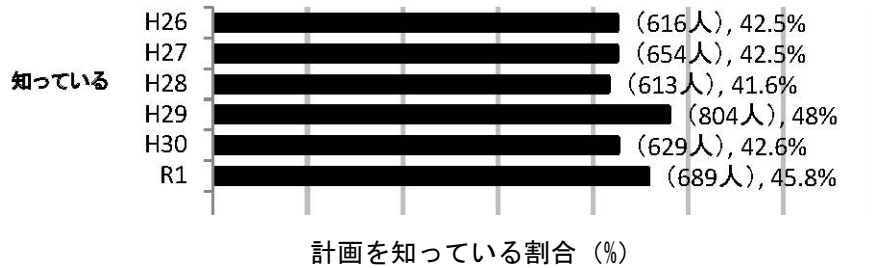


クラフト教室の実施(里山ガーデン)

Q.「横浜みどりアップ計画」をご存知ですか？

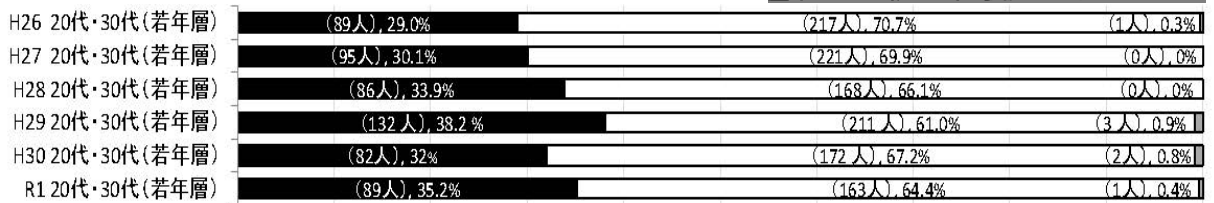
計画を知っている割合は4割台で推移。

令和元年度は、45.8%まで増加。

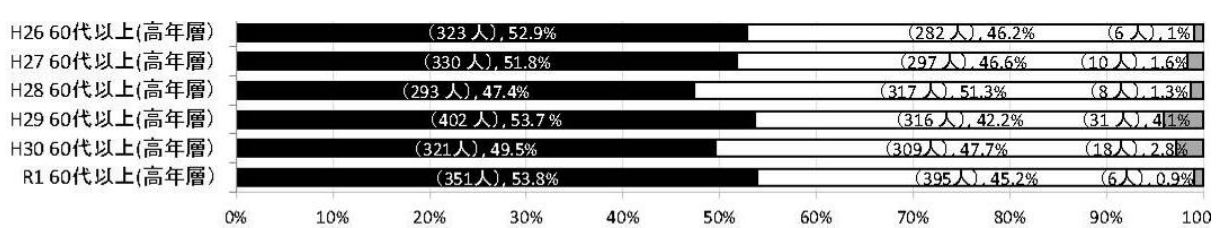


計画を知っている割合は、高年層で高く、若年層で低い傾向が続いている。

<若年層>



<高年層>



※「知っている」は、「取り組み内容を知っている」、「あることを知っている」、「名称を見たことや聞いたことがある」の合計

『「横浜みどりアップ計画」や「横浜みどり税」の広報に関する調査』等の調査結果より

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- みどりアップ計画の実績についてリーフレットを作成し、市連会・区連会で説明したほか、電車内での広告や、約3千台の市内を走る市営バスやごみ収集車へのステッカー貼付など、幅広い層の目に留まる媒体を活用し広報PRを行いました。わかりやすいリーフレットの作成や映像の活用など、実績がより伝わるよう努力しました。
- 効果的な広報の展開のためには、あらゆる機会において市民の目に留まることが必要であると考えており、市民の森や農園付公園の整備や、街路樹の維持管理など、みどりアップ計画で行われる個所への現地表示をきめ細かく行うなど、関係各課との連携を強化し、より充実した広報を進めてまいります。

◆施策についての評価・提案(たたき)

- 広報よこはまは、多くの市民が行政の情報を入手するツールとして利用している広報媒体であるため、定期的な記事掲載や、特集記事は効果的と考えます。引き続き市版及び区版への記事掲載に取り組んでください。
- 新しい計画ロゴは、時代に合わせて洗練されたと感じます。今後も、見やすい、分かりやすい、幅広い世代が手に取りたいと思えるようなデザインの広報が展開されることを期待します。
- 電車内での広告や、市営バスやごみ収集車へのステッカー貼付は、幅広い層の目に留まることが期待でき、計画を知る最初の一步となりえます。まずは日常的に繰り返し計画のロゴ等を目にする機会を設けることで、広く市民に認知されるよう、様々な媒体での計画のPRに引き続き努めてください。
- 事業実施場所での現地表示は、計画の成果を直接的に実感できる広報と考えます。特に工事現場での現地表示は、掲示されるサイズが大きく目を引くとともに、工事完了後の期待感と合わせて計画が認識されるため、効果的な広報手段であり、積極的に取り組むことを期待します。
- 計画の広報は継続した取組が重要です。広報事業に直接携わる職員だけでなく、計画に関わる職員全体の広報に対する意識を高め、様々な機会をとらえた途切れのない広報への工夫を積み重ねるよう努めてください。
- イベントでの広報は、多くの人の意識に止まるため効果的と考えられますが、現状では大規模なイベントの開催が難しいため、この状況に即した広報を考えていく必要があります。

広報・見える化部会 部会長コメント

高田 房枝

6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきた中で感じたことや、生活の中で、緑について日ごろ各委員が感じたことについて、委員一人ひとりからのコメントを紹介します。

市担当者からのコメント(環境創造局みどりアップ推進課)

- みどりアップ計画の実績についてリーフレットを作成し、市連会・区連会で説明したほか、日産スタジアムでの看板設置、映像の放映など新たな媒体も活用し広報 PR を行いました。わかりやすいリーフレットの作成や映像の活用など、実績がより伝わるよう努力しました。
- 効果的な広報の展開のためには、共通の認識を広報よこはま区版を所管する各区役所や事業所管課と共有することがより一層必要であると考えており、今後もみどりアップ関係各課で連携を強化し、より積極的な広報を進めていきます。

◆施策についての評価・提案

- 広報よこはまの特集記事は効果的だと思います。引き続き市版及び区版への記事掲載へも積極的に取り組むとともに区版の特集は有益な情報が満載なので、他区民も見られるよう情報提供してください。
- 職員や関係者が出向いて、説明や講演会など行うことは地域の方がみどりアップ計画の内容についての理解を深めるために有効です。
- 保育園や幼稚園、小学校での広報はこれからを担う子どもに対するPRだけでなく、その親に対してもPRできるという点で効果的です。
- 事業実施場所での現地表示は、実績を目で見えて知ってもらうために大変重要です。街中を歩く市民がこれもみどりアップ計画なんだと知ってもらえるよう引き続き現地表示を行った事業場所が増えていくことを期待します。
- みどりアップ計画を進めていくためには、市民の皆さんの理解が欠かせません。これまでの行政や市民推進会議が行う広報に加えて、地域の方々による自発的な情報発信が広がるように工夫する必要があります。
- 計画については、4割の市民が知っていると答えており、市の計画としては比較的多くの市民に認知されていると評価します。さらなる認知度向上のために、取組実績の周知と合わせて、例えば交通広告などの媒体を活用し短期集中的に広報していくなどの取組も有効です。

広報・見える化部会 部会長コメント

この5年間、みどりアップの広報は、単に紙媒体だけでなく、アニメーションやキャラクター、街なかの告知など、多面的な展開により、これまで関心のなかった世代に訴求してきたことは評価します。

広報部会では、さらに地域の緑に関心を持ち、実際に緑に触れ、活動する人たちを増やしたい、という想いで、この5年間、広報誌「みどりアップQ」の取材を通じて、地域で活動する人たちにスポットをあて、地域での広がりを促してきました。また、対面式アンケートを行い、実際に市民の声を拾いながら、横浜の緑のあり方を会議に届けてまいりました。

現在、「横浜みどりアップ計画」の認知度は約4～5割ですが、広報による認知度としては高い効果と言えます。今後は、地域に根付いた理解と、実際の行動を促すアクションに期待します。市民自らが楽しみ、参加できるような機会づくり。そのためにも“人”が大事。環境意識の高い、横浜だからこそ、一人ひとりが情報発信できるような広報のあり方を、ぜひ続けていって欲しいです。

最後に、市民委員で構成された私たち、広報部会とともに、伴走して下さった職員、専門委員の皆さまに感謝の意を表します。

東 みちよ

6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきた中で感じたことや、生活の中で日ごろ各委員が感じたことについて、委員一人ひとりからのコメントを紹介します。

相川委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

横浜市民はみどり税(市)、水源環境保全税(県)、森林環境税(国)と同じような目的で納税する。市民自身その徴税目的やその使われ方を今後さらに意識する必要があるのではないのでしょうか。

委員として活動することでみどり税の使われ方や施策を知ることができました。今度はあらためて市民として活動していきます。

網代委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会 所属）

平成 30 年度、委員として会議に参加させていただき、2014～2018 年度の横浜みどりアップ計画の取組が、着実に実施されていることを強く感じます。これは、ひとえに緑の持つ美しい街をつくる景観形成機能や防災・減災に役立つ機能などの様々な重要な機能をご理解いただき「横浜みどり税」を納付して下さっておられる市民の皆様、各地で森や農地、緑、花を守るためにご熱心に活動しておられる市民の皆様のおかげによるものだと感謝申し上げます。

横浜みどりアップ計画[2019-2023]につきましても、引き続き行われる事は、大変よろこばしい事と思っています。

市民の皆様が森や緑・花とふれあっていただきますと共に、ぜひ農業体験を行っていただきますようお願いしております。

池田委員コメント(「緑をつくる」施策を検討する部会 所属)

横浜みどりアップ計画による緑豊かな環境を将来に残すためには、守られ、つくられ、育てられた緑を市民が本当に実感できるようにしなければなりません。

民有地の緑化助成には、もっと緑や花の活動をしている地域の個人や団体、例えば港北区や瀬谷区で行われているオープンガーデンなどにもより多く助成をすべきかと思えます。公共施設の緑を増やすことも大切ですが、その維持管理の質的向上と充実も行わなければいけません。現状では、良い管理が行われていないので、請負業者と管理監督する市の担当者の技術的向上を望みます。

緑花による賑わいの創出は全国都市緑化よこはまフェアを契機として、それに続くガーデンネックレス横浜のイベントにより、山下公園などの臨海部や、ズーラシアに隣接した里山ガーデンなどの緑や花を市民が楽しみ実感できるように今後もイベントを続けて欲しいです。

岩本委員コメント(「森を育む」施策を検討する部会 所属)

横浜市内は今も小規模宅地開発等による都市化が進んでいます。私たち市民の森愛護会は、市民の皆様には良好な森を安心・快適に楽しんで利用していただくため、日々市民の森の維持活動に取り組んでおります。活動の中で利用者と交流が生まれ、森を楽しんでいる姿を見るのは、維持活動のやりがいにもつながります。

次世代を担う幼稚園や保育園児から、青少年、高齢者に至るまで、教育や健康面からも森の効用は計り知れません。横浜市には、市民の共有財産でもある里山の大自然をこれからも保全して欲しいと思います。

そのためにもみどり税は将来的にも継続してほしいと思います。

大竹委員コメント(「農を感じる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属)

みどりは多くの意味を持ちます。食べる めでる 共存する 癒される 防災するなど 私たちにはなくてはならないものです。特に人工物で囲まれた都会暮らしならば、人はみどり無くしては、心穏やかに暮らすことはできないでしょう。

横浜では、そのことに早くから気が付き、森を守り農を守り緑を創造することで、市民の暮らしを豊かなものにしようと計画し、みどり税を導入し10年がたちました。

その計画の隅っこに参加させていただき、5年が経ちました。この間に知りえたこと 分かったこと 問題点などをこれからも考え続け、発信していきたいと思っています。

この後も計画は続いていきます。市の職員の方には引き続き、新しく委員になられる方には、新しい見方や良いアイデアをいただき、息の長い計画としてもらいたいと願っています。

加茂委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

市民の森ができてもうすぐ50年です。制度ができた頃に開園した「市民の森」の活動を昨年、取材をしました。愛護会の方たちから「子供の頃、親に連れられて遊びに来ていた森を今私たちが手入れをしている」という話を聞きました。その森は50年近く市民の協力で保全されていることを改めて考えると、「ありがとう」という感謝の思いでいっぱいになりました。これから先50年この森は、と未来を想像しながらこの森が次世代に引き継がれることを期待しています。森を残す、豊かな自然環境を維持することは30年、50年先を考えた計画と継続した取組が大切だと思います。横浜は都市として発展しながら、森や田畑などの緑を維持するために先駆的な取組をしてきたことを知りました。そして「みどりアップ計画」にも引き継がれています、まちが開発されてもみどり豊かな自然環境のバランスのとれたまち横浜であり続けてほしいと願っています。

5年間みどりアップ計画市民推進会議に参加し、森や畑や田んぼ、まちの緑に関わる多くの現場と活動している市民に出会い、活動の様子や思いを聞くことができたことは貴重な経験となりました。感謝致します。今後は市民として応援していきたいと思っています。

蔦谷委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

横浜みどりアップ計画市民推進会議がスタートして、10年。「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」は着実に前進しましたが、その原動力は横浜市が持つ強力な市民力にある、と実感しています。次のステップの課題は量から質へ、そして地域主体への切り替え・転換。さらなる市民力の発揮によってこれを実現し、全国の都市のリーダーとして、新たな時代の都市を創造していくことを期待しています。

長瀬委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

私にとって行政は、固く、決まった事を進めて行くとの印象でしたが、各会議、調査において、組織以外の意見も取り入れ、対応の術を考えようとする様子を感じられた5年間でした。数値目標は大切であると思いますが、高く掲げる事を目標とするのではなく、活用する市民に適した目標や内容を探り、計画し見直しする柔軟さと利益に偏らない継続性を今後も願っています。

地域で緑をつくり、人との繋がりも生まれる活動や団体数も増え市民の関心の広がりも感じられました。生活の営みと緑、自然には距離が出来ましたがそれでも欠かせない物の価値として、委員終了後も緑の必要性和人との繋がりを考え続け、行動していきたいと思っています。

また、行政の方々にも、市民が参加出来る、日常でもふれあえ親しめるみどりを様々な場面で守り、作って頂ける事を願っています。良き経験の5年間ありがとうございました。

野路委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

最終年度を終えて、これまでの事業の達成度を踏まえ横浜の農業の今後の在り方について、行政の方々等色々と議論していただき、今は農業にとって、みどり税は大切な税になっています。

横浜の農業が継続できるように、施策の中でばらまき税ではなく、着実にできる、未来ある人達に助成してあげる税にしてください！

どんなに世の中が急速に発展しても、食の安全安心は、皆が願っていることです。横浜の米、野菜がいつまでも出来るように、安定的な経営ができる農業に、みどり税と共に育てほしいと思います。

最後に市民推進会議委員として5年間みどり税について勉強させていただきましたこと感謝申し上げます。

梶山委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

市民が身近に農を感じる場をつくる取組の中で、収穫体験農園をはじめ多様な農園を開設したことは、市民が農業とふれあう機会が増え、農に対する理解も深まったと感じる。大人と子どもと一緒に農作業体験をすることなどは、横浜の農業を知るためには、とても有効な手段だと考える。景観や生物多様性の保全など農地が持つ環境面での機能だけでなく、食料生産という農業の根本目的を再認識するためにも、地産地消の推進も含め、食と農を明確に結び付けることで、より身近な横浜の「農」の存在をアピールできるはずである。

次期の横浜みどりアップ計画の実施にあたって、今まで以上に市民との距離を縮められることを期待している。

若林委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会 所属）

平成 25 年度から、横浜みどりアップ計画市民推進会議の委員を務めさせていただきました。この間、全体会議や部会等において、進士座長の大所高所からのお話や各委員の皆様からの活動実態をお聞きできたことは、みどり行政の重要性と多様性を勉強する貴重な機会をいただいたととても感謝しております。人口減少と高齢化が進むこれからの横浜の都市運営を考えると、みどり行政の果たす役割は益々大きくなっていくと感じております。横浜を、環境を軸に社会・経済・生活・文化等のバランスがとれた持続可能な都市とするため、みどりアップ計画の諸事業が、都市防災力の強化や子育て環境・生活環境の向上、街づくりへの貢献、観光資源の充実、都市型農業の振興等々、幅広い都市政策分野と連携しながら推進されていくことを期待しております。